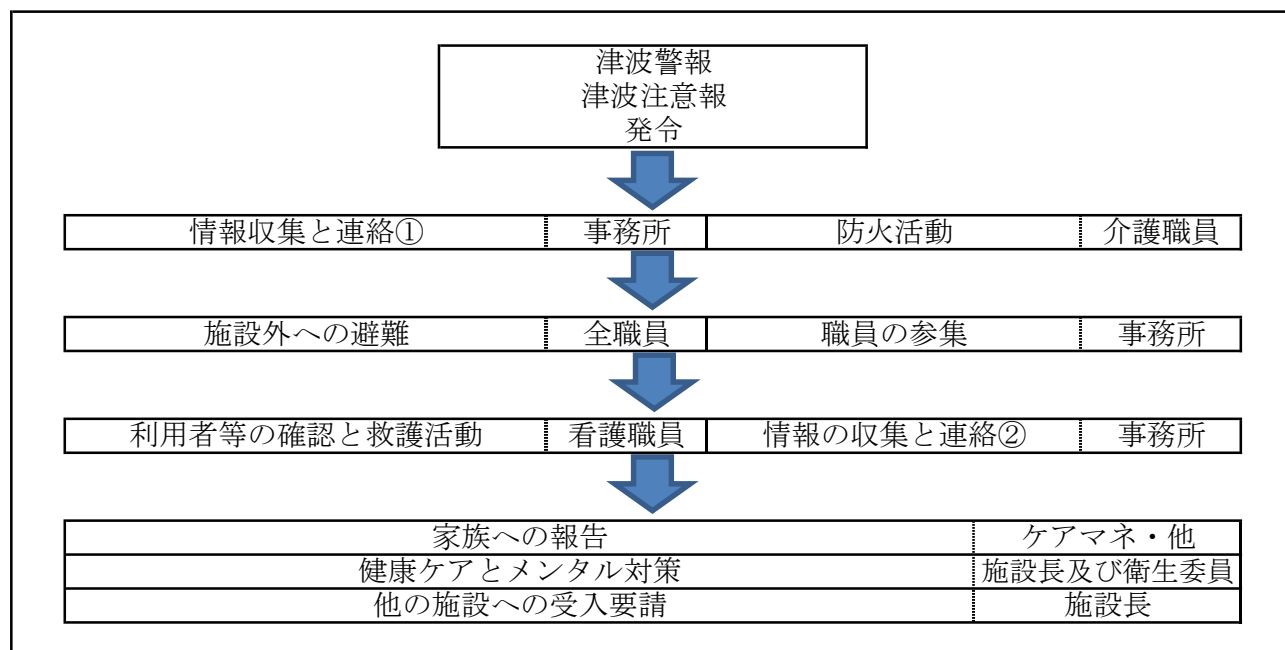


# たか音の杜 津波対策計画マニュアル

統括責任者 : 施設長



- 1 . 情報収集と連絡①

津波警報が発令されたら、到達予想時間までに時間があるとしても、早まることもあります。なるべく早く、避難指示の連絡をしましょう。

正確な情報を伝えて、利用者の動揺や不安を解消するとともに、早めに避難行動をとしましょう。

津波注意報が発令されたら、テレビ、ラジオ、インターネットなどによる津波情報に注意しましょう。

津波注意報であっても、満潮時刻になると、低地では浸水の被害が発生する恐れがあります。気象庁や防災関係機関などからも情報を収集すること。
- 2 . 防火活動

避難まで時間的余裕があり、可能な場合には「火の始末」やガスの元栓を閉めるなど2次災害を防止すること。
- 3 . 避難

避難先や避難経路、避難の方法を確認すること。

津波注意報が発令されてから、津波到達までの時間が短い場合もあります。特に愛心苑周辺は海拔が低いことから、無理な避難は2次災害の引き金になる可能性があります。場合によっては施設内の3階等の園内での避難も検討すること。

避難誘導にあたっては、早口を避け落ち着いた口調で、同一内容を2回程度繰り返し、パニック防止に努めること。

施設職員が不足している場合、地域の協力を求めましょう。
- 4 . 職員の参集

施設周辺に在住の職員は、家族の安全が確保され、避難まで時間的余裕がある場合は、自発的に参集しましょう。

夜間の場合、少ない職員での対応となりますが、落ち着いて的確な初動活動に努めること。
- 5 . 利用者等の確認と救護活動

直ちに利用者、職員が避難しているか確認すること

負傷者の応急手当を実施し、状況によっては消防へ連絡すること

- 6 . 情報の収集と連絡②  
市の防災関係機関や消防、警察などから現在の状況など必要な情報を収集すること。  
正確な情報を伝えて、利用者の動揺や不安の解消に努めましょう。  
職員にも正確な情報を伝えて、職員間で十分な意思疎通や情報の共有化が図られるようにすること。
- 7 . 家族への報告  
家族に利用者の状況を伝えること。  
家族への報告引き渡しは、家族等が勝手に連れ帰ることがないように、職員立合いのもとで利用者や引受人の氏名、引渡時刻を記録すること。（引継カード使用）
- 8 . 健康ケアとメンタルヘルス対策  
利用者の健康状態や精神状態を確認し、体調管理や不安感の軽減に努めましょう。  
心身の変調が著しい利用者に対しては、嘱託医、かかりつけ医に相談し、医療機関への受入れ要請が必要か検討すること。さらに、医療機関の受け入れが困難な場合は、市や県など関係機関との調整をしましょう。
- 8 . 他の施設等への受け入れ要請  
施設が被災し、休業せざるを得ない場合は、協力施設や市とも協議し、利用者を他の施設等で受け入れてもらえるように協議すること。